総務課よりお知らせ

現在、利島村では多量の重油を利用して、発電を行っています。
村内のご家庭や事業者が支払う年間の電力料金はおよそ年間5,000万円。
村の基幹産業である椿油の売上の半分以上に及びます。

この5,000万円にものぼる電力料金ですが、太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーをフル活用すれば、半額の2,500万円程度まで減らすことが可能です。

皆様が支払った2,500万円は、施設の整備や維持のほか、現在、化石燃料等に従事されている事業者の方々が、新たに再生可能エネルギー施設での運営業務にも従事いただく対価としても使われ、従来の雇用もしっかり確保できます。

国が2050年の温暖化排出ガス実質ゼロを、東京都も2030年新車ガソリン車廃止を打ち出し、エネルギー施策が大きく見直される中、利島村はこの変化をチャンスととらえ、村民の皆様の光熱費負担を半額にすることを目指して「利島村エネルギートクトク計画（利島村カーボンゼロ計画）」をスタートしたいと考えています。

しかも、地球温暖化につながる二酸化炭素を排出しない形で。
お財布にも優しく、自然にも優しい－これが利島村のSDGsです。

世界・日本・都の状況

令和２年10月26日の臨時国会で、菅首相は「温暖化排出ガスを２０５０年度に実質ゼロとする」目標を掲げました。

更に１月に就任したバイデン米大統領も、トランプ政権下で離脱した気候変動抑制に関する多国間の国際的な協定であるパリ協定へ復帰を表明し、復帰のための文書に署名するなど、地球温暖化対策への取り組みが急加速し、温暖化対策は世界規模で次の段階に移行することが確実な状況です。

菅首相の目標を受けて、経済産業省では、２０５０年に自動車の製造から廃棄・リサイクルまでのライフサイクル全体で二酸化炭素排出ゼロを目指すこととしました。

東京都でも、令和元年末に策定した「ゼロエミッション東京戦略」で二酸化炭素の排出量を２０５０年までに実施ゼロにする計画を示しており、さらに令和２年12月８日の都議会で、小池都知事が都内でのガソリン車の新車販売について、乗用車は２０３０年までに、二輪車は２０３５年までにゼロにすることを目指すと表明しました。

持続可能な開発目標「ＳＤＧｓ」

最近、ニュースやＣＭでもよく耳にすることが多くなったＳＤＧｓ（エスディジース）。

Sustainable Development Golas（持続可能な開発目標）の略称です。

平成27年の国連サミットで決まったもので、平成28年から令和12年までの15年間で、17の目標を各国が達成することを決めました。

「持続可能」とは、今が良ければいいのではなく、経済や環境、社会や制度のシステムがうまく機能し、未来が豊かで幸福であり続けられることを意味します。

「開発」とは、現存する貧困や差別などの色々な問題を含み、こうした問題を解決し、世界中から貧しい人やおなかをすかせた人、教育を受けられない人をなくし、みんなが健康で長生きし、平等にきちんと教育を受けられることを目指すものです。

これは先進国だけでなく発展途上国も協力して実現に向けていくこととされています。

持続可能な開発目標の17の目標は、次の通りです。

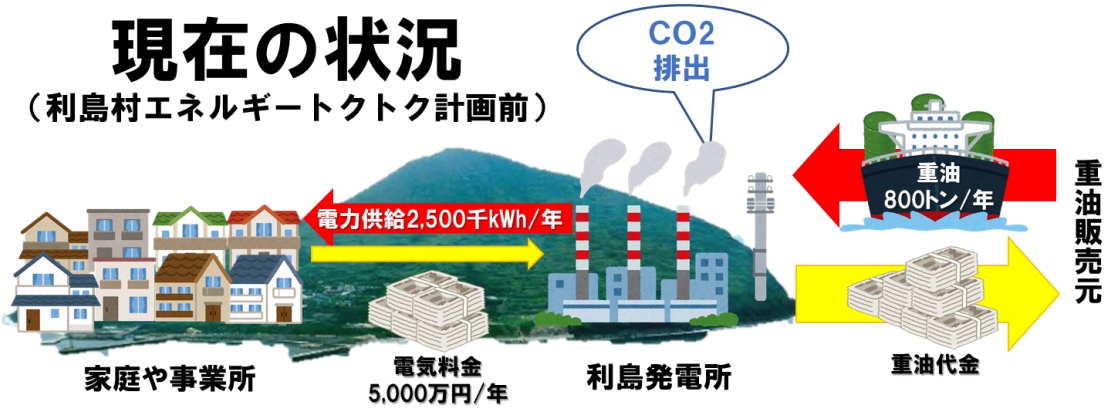
１ 貧困をなくそう、２ 飢餓をゼロに、３ 人々に保健と福祉を、４ 質の高い教育をみんなに、５ ジェンダー平等を実現しよう、６ 安全な水とトイレを世界中に、７ エネルギーをみんなに、そしてクリーンに、８ 働き甲斐も経済成長も、９ 産業と技術革新の基盤を作ろう、10 人や国の不平等をなくそう、11 住み続けられるまちづくりを、12 つくる責任つかう責任、13 気候変動に具体的な対策を、14 海の豊かさを守ろう、15 陸の豊かさも守ろう、16 平和と公正を全ての人に、17 パートナーシップで目標を達成しよう。

利島村役場でもＳＤＧｓを念頭に置きながら政策の立案や事業の実施を行っています。

利島村のエネルギー状況（電力の例）

さて、ＳＤＧｓの観点から見た利島村における電力の利用に関するエネルギーやお金の流れはどのようになっているか説明します。

利島村の電力は、重油を燃料にした火力発電により作られていますが、電力事業者は燃料の重油の輸入に多額の費用を支払っており、村内のご家庭や事業者からの電力料金収入（約５千万円）ではまかないきれず、苦しい経営状況の中、電力供給を担っていただいています。



利島村では、ご家庭や事業所を平均すると一需要家あたり年間およそ25万円もの電力料金を支払っています（事業所を含んでの平均です）。

月間でいえば2万円以上。大きな負担です。

さらに重油という化石燃料を利用していることから大量の地球温暖化につながる二酸化炭素が排出されています。

このように村民の皆様のお財布にも厳しく、自然環境にも厳しく、発電を行う電力事業者の経営に厳しい現状が、現在の利島村の電力エネルギーをめぐる状況です。

再生エネルギーで暮らしを豊かに

遠い江戸時代の私たちの祖先が植えてくれた椿が、利島村を全国一の椿油の生産量を誇る村にし、現代に続く私たちの生活を支えてくれています。

村役場では、「令和の椿」として、再生可能エネルギーを活用し、積極的に村民の皆様に還元し、安定した収入と暮らしやすい環境につなげていきたいと考えています。

具体的には、無限に降り注ぐ太陽や、年中吹く風を活用した太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーを活用すれば、毎月の電力料金を半額程度まで減らすことが可能で、一需要家あたりの電力料金は年間およそ25万円から年間12万5千円まで下げることができます（事業所を含んでの平均です）。

村役場では、皆様のお給料を直接増やすことは難しいですが、暮らしにかかるコストを減らすことで実質的に村民の皆様の収入を増やすことはできると考えます。

状況の変化に対応して雇用を守る

かつてなくなることはないと思われた馬車はたった10年で自動車に置き換わりました。

フィルムカメラもデジタルカメラに置き換わり、そのデジタルカメラもスマートフォンにその座を追われています。

村役場では、時代の変化をピンチではなくチャンスととらえ、これまで化石燃料に従事してきた方の雇用確保も行っていきます。

村役場では、この計画を「利島村エネルギートクトク計画」（利島村ゼロカーボン計画）と名付けました。

利島村は、日本一の椿油の生産量を誇ることに加え、日本一電気代の安い村を目指していきます。

利島村エネルギートクトク計画の概要

（1）初期費用

まず、村は、国や東京都の補助金をフル活用し、太陽光パネルや、風力発電や蓄電池などの設備を備えた施設を設置します。

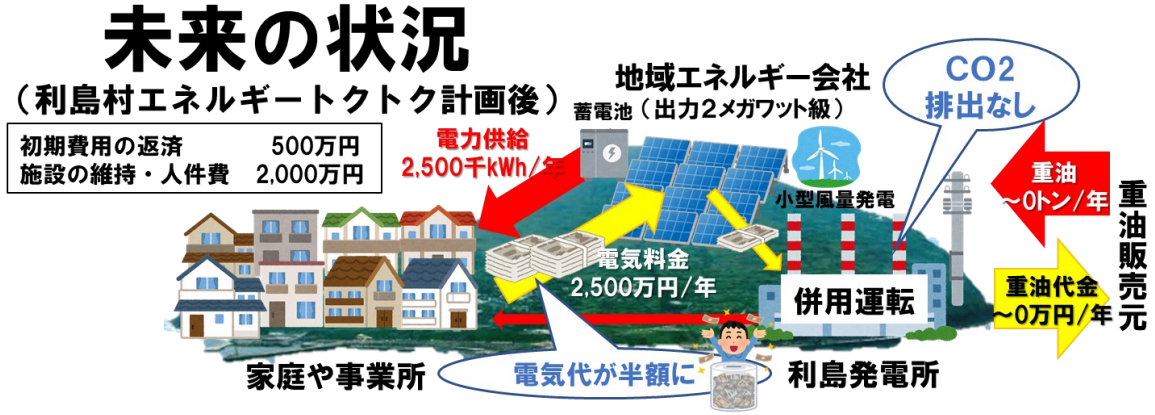
詳細な試算はこれからですが、概算では全ての施設の整備にはおよそ5億円規模の費用が見込まれますが、再生可能エネルギーの活用には多額の補助金制度が用意されており、補助金等が75％以上出るため、村の負担は限定的です。

設備は、約20年利用可能で、毎年約500万円程度の支払いを20年続け、初期費用をまかなっていきます。

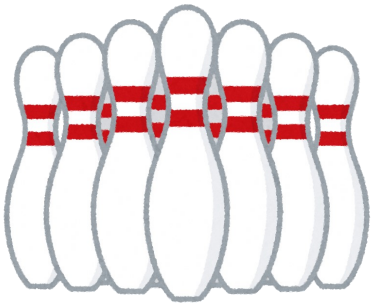
（2）施設の維持など

新たに地域エネルギー会社を設立し、料金の徴収や併用運転する利島発電所に対する電力料金等の支払い、施設のメンテナンスなどの運営を行います。

これまで化石燃料に従事された方はこの新会社で勤務していただくことを想定しており、雇用を確実に確保していきます。

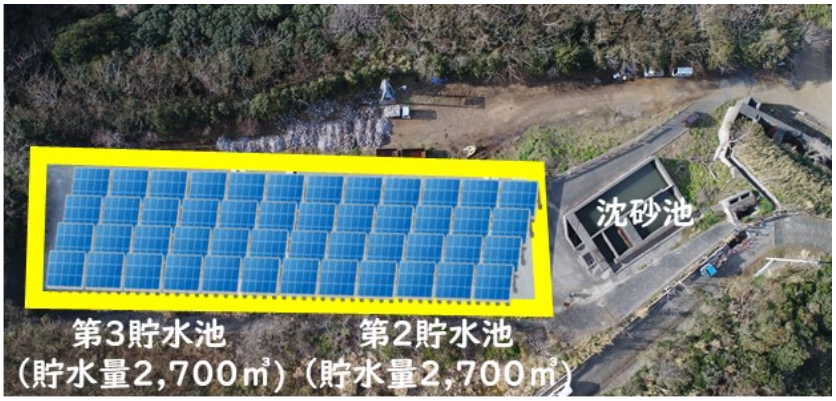


（３）電力料金
村内の家庭や事業者は、電力料金として現在の半額の毎年２千５百万円を地域エネルギー会社に支払います。
（４）各種支払い
地域エネルギー会社は、初期投資の返済に500万円を、施設の維持や人件費に２千万円を支払います。
（５）利島発電所の収支
現在の重油による発電設備は引き続き併用していきます。
ただし、基本的には再生可能エネルギーが主となるため、これまで要していた多額の重油代が不要になり、経営が好転します。
（６）二酸化炭素
これまで排出していた二酸化炭素はほとんど排出されなくなり、ゼロカーボンが実現します。
（７）災害への備え
蓄電池があるため、災害が起きた場合も、問題なく電気を利用できます。
これに加え従来の利島発電所の発電設備もあるため、多重の備えにより、防災減災に役立ちます。



令和３年度の予定

令和３年度は、利島村エネルギートクトク計画」（利島村ゼロカーボン計画）の詳細な計画設計に加え、本計画の一環として、浄水場の貯水池の屋根に太陽光パネルの設置を計画しています。
１億円程度の費用が見込まれますが、多額の国や東京都の補助金制度が活用できるため、村の財源の持ち出しは限定的です。
当然、これにより村役場の電力料金負担が減りますので、村民への皆様への還元として、勤労福祉会館でのスマホなどのバッテリー充電無料サービスや、ボウリング料金の値下げ、電気自動車の無料充電ステーションの設置などをトクトクの第１弾として検討しています。



計画実現のための課題

将来的に、村民の皆様の電力料金等を半額にする本計画ですが、実現までには多くの壁があります。
（１）村民の皆様のご理解
本計画の実現は、何より村民の皆様のご理解なしには不可能です。
皆様のご理解ご支援をバックに、国や東京都のさらなる支援を引き出していきます。
（２）東京電力との調整
現在の東京電力の電力に太陽光発電や風力発電で生み出した電力を加えるには、規制（接続制限）があり、この緩和が不可欠です。

○今回の試算に用いた数字
電力料金は、１kWhあたり20円で計算しています。
また、詳細な全体構想の策定や設計はこれからであるため、数字について変動がある場合があります。

今回の浄水場の太陽光パネル設置や利島村エネルギートクトク計画（利島村カーボンゼロ計画）の詳細設計については、令和３年度予算に計上しており、令和３年村議会第１回定例会にお諮（はか）りし、ご意見や決議をいただく予定です。